



## 農林水産業の、 6つのみらいが、 ここに 있습니다。

農林水産業の現場で始まっている、  
さまざまなチャレンジを応援したい。  
そして、農林水産業の新しい可能性を日本中へ広げたい。  
そんな思いで設立された「農林水産業みらい基金」。  
JA(農業協同組合)・JF(漁業協同組合)・JForest(森林組合)  
グループの一員である農林中央金庫から  
200億円の拠出を受けて昨年設立されました。  
初年度は、全国から120件もの応募があり、  
結果、6つのプロジェクトへの助成が決まりました。  
本日は、日本の農林水産業の新しいみらいをつくる、  
その6つのプロジェクトをご紹介します。

### 平成26年度 助成対象事業のご紹介

#### えちご上越農業協同組合(新潟県)

##### 雪下野菜で、地域のみらいを切り開く。

新潟県の上越市と妙高市。全国有数の豪雪地帯として知られるこの地域は、長い間、米作りがとて盛んな場所でした。しかし米の消費量や価格が下がり、地域の人々は大きな悩みを抱えていました。そこでこのプロジェクトが目をつけたのが「雪下野菜」。野菜本来の甘みを引き出す豪雪地帯ならではの農法を活かし、新しい特産物を生み出す活動を始めます。さらに、農作物の直売所に加え野菜加工施設やレストランをつくることで、

地域の農作物の販売をふやし農業所得向上にも挑戦します。



#### 株式会社 ABC Cooking Studio(東京都)

##### 地産地消を、料理教室から広げていく。

国内外あわせて累計100万人を超える生徒数を誇る、日本有数の料理教室「ABC Cooking Studio」。130ヶ所を超えるその国内スタジオで、新しい取り組みが始まっています。

それが、地域の農林水産業者や農協などと連携、カリキュラムで使う食材の産地を厳選し、地産地消をスタジオから広めるプロジェクト。食材をつくる人と食べる人を近づけるきっかけを、レッスンを通してつくる、画期的なチャレンジです。さらに海外スタジオ

では、日本の食材や日本食の魅力を伝えることで、日本の食文化の輸出も後押ししています。



#### 協同組合 夢高原市場(広島県)

##### 農業をとおして、この町のファンをふやす。

広島県世羅町。この町につくられたのが「世羅高原6次産業ネットワーク」です。

これは、農協や農業に携わる法人が会員となっている、全国でも類を見ない地域独自の農業ネットワーク。この新しいつながりが中心となり、いま、いろんな取り組みが始まっています。

この町の農家に宿泊体験ができるグリーンツーリズム。ユニークな商品開発による農作物のブランド化。他にもさまざまな知恵と工夫をこらし

ながら、農業をとおしてこの町のファンをふやすきっかけをつくり続けています。



#### 石央森林組合(島根県)

##### 林業と福祉が手を取りあう、新しい地域のつくり方。

国内の木材価格が低迷を続けるなか、木を伐採したあとの土地が、そのまま放置されてしまう。そんな問題が、日本の林業に起こっています。

このプロジェクトでは、そんな再造林の問題を解決するために、手間やコストをおさえる「コンテナ苗」の生産を始めました。

さらに注目すべきは、コンテナ苗の生産設備を、地域の社会復帰促進センターの中につくること。センターの訓練生や高齢者のチカラを借りながら、

地元の林業の活性化を目指します。まさに、林業と福祉が手を取り合った、新しい地域のつくり方です。



#### 三重外湾漁業協同組合(三重県)

##### つぎの漁師を育てることで、漁村を育てていく。

高齢化による漁師の減少は、日本の漁業全体が抱える大きな問題となっています。

そこでこの地域では、新しく漁師や海女になりたい人々を、住民たちが積極的に応援する「畔志賀(あしか)塾」を始めました。この画期的な試みを通して、やがて漁師や海女となり地域に住んでもらうサポートを、町全体で行っています。

さらに、休漁時期でも安定的な収入をちゃんと確保するために、水産加工施設を整備。この町で

暮らす人々が一体となりながら、漁業を中心とした新しい地域づくりに挑戦します。



#### 有限会社 トップリバー(長野県)

##### 2つの育成で、農業のみらいをつくる。

高齢化によって、農村が元気を失い始めている。これは、日本の農業全体が抱える大きな課題です。そこでこのプロジェクトでは、2つの挑戦を通して、その課題を解決します。ひとつは、農業法人と農協、富士見町が一体となった、大規模な農地の開発。これにより、高原野菜の産地としてのみらいを、町全体でつくっていきます。

さらに、農業を始める人を育てる環境づくりにも挑戦。農業を通して地域を育てること。次世代の

農業を担う人々を育てること。2つの育成を両立し、農業のみらいをつくります。

